

新型コロナウイルス感染拡大で出社ができない状況となるなか、事務処理のなかでもとくに経費精算作業で頭を痛めている企業は多い。請求書のペーパーレス化や経費精算の自動化などのサービスを提供する数多い企業の中で、人とシステムの融合でそれらの業務効率化を提案するのがBearTail（ベアテイル、東京・千代田）。請求書のデータ化作業には2000人以上が携わっており、コロナ禍で職を失った人の受け皿にもなっているという。より多くの中小企業に利用してもらうため、地域金融機関との連携を積極化したい考えだ。

ベアテイルの経費精算サービス「Dr. 経費精算」が多くの似たサービスと根本的に異なるのは、とにかくユーザー企業にとって導入への敷居が低いことだ。

ユーザー企業にとって、経費精算はわずかのステップで完了する。しかも完全ペーパーレス化を実現できるのにも関わらず、容易に導入ができ、コストもそれほどかからない。

そのカギは専用の「レシートポスト」にある。ユーザー企業はオフィスにベアテイルが用意した領収書を投函するためのレシートポストを置くだけ。ベアテイルは投函された領収書を回収した後に、経費精算に対応する領収書原本がきちんと投函されているか、スタッフ2000人が原本をデータ化しただけで、そのすべてを点検してくれる。

# 経費精算より簡単により安く

## スタッフ2000人 コロナ禍の職の受け皿

領収書専用の「レシートポスト」



経費の精算業務の効率化は月末に処理が集中する企業の経理担当部署では、ベアテイルのサービスを使えば社内から領収書を一掃でき、申請書類との付け合わせ作業もしなくてよくなる。ある程度の事業規模の企業では、経費関係だけでも紙の書類の保管にもそれ相当のスペースを用意しなければならぬ。領収書の紛失などのリスクもなくなるという。気になるのはサービスの利用にかかるコストだが、基本利用料は3年契約で年間の領収書枚数3000枚で年計円から、それをベースにする領収書の枚数に応じた料金がかかるが、他レシートポストなどの専用利用料と導入時の初期料だけだ。

導入企業の1つにロースト（東京・千代田）のバイク便の運営企業。とピンとくる人も少なくないだろう。同社はこの3月から1月下旬に導入を決め、今月に運用を始める予定だ。ベアテイルのサービスの導入にあたってはマネージャーやフリーなども検討したうえで、最終的にベアテイルに決めたという。後平佐保子執行役員は「現場のドライバーからはガソリ



## ポストを使った独自システム



取材に答えるローストの後平佐保子執行役員

ン代などを中心に、毎月大量の経費精算請求が寄せられ、月末の事務処理量の削減が課題になっていた。領収書と書類との付け合わせは、どうしてもミスが多く、差し戻さなければならぬ。そうした手間が作業量の増加に輪をかけていた。ベアテイルを使うことで、会計システムへの手入力などもしなくて済むなどその効果を説明する。

さらに決めた手となったのは、領収書原本のデータ化に約2000人のスタッフが携わっていることだ。後平さんは「このコロナ禍で苦しい状況にある中で、単に効率化をたいと考えている」と話す。首都圏では大手行などの紹介もあり、順調に導入先が広がってきた。このサービスをいかに幅広く使ってもらおうか、その方策として地域金融機関との提携を今後は進めたい考えだ。

進めるだけでは社会の課題を解決できない。われわれはドライバーが社員の約半数を占める。多くの人が関与できる仕組みを提供するベアテイルの企業姿勢は信頼できると思